

『源氏物語』 「須磨の秋」 テスト問題

【一】本文について、設問に答えよ。

須磨には、いとど心づくしの秋風に、海は少し遠けれど、行平の中納言の「関吹き越ゆる」と言ひ（A）
けむ浦波、夜々は①げにいと近く聞こえて、またなくあはれなるものは、②かかる所の秋なり（B）けり。
御前にいと人少なにて、うち休みわたれるに、独り目を覚まして、枕をそばだてて四方の嵐を聞き給ふに、
波ただここもとに立ち来る心地して、涙落つともおぼえぬに③枕浮くばかりになりけり。琴を少し掻き鳴
らし給へるが、我ながらいとすこう聞こゆれば、弾きさし給ひて、

X恋ひわびてなく音にまがふ浦波は思ふかたより風や吹く（C）らむ
とうたひ給へるに、人々④おどろきて、めでたうおぼゆるに忍ばれで、あいなう起きるつつ、鼻を忍びやか
にかみわたす。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①御前 ②四方

問二 〈A〉〈B〉〈C〉の助動詞の意味を答えよ。

問三 傍線部①について、

（1）本文中での語意を答えよ。

（2）何に対して「げに」なのか。最も適切なものを選択肢から選び、記号で答えよ。

ア 夜は静かだからこそ、遠い海の波でも鮮明に聞こえてくるということ。

イ 物思いをする秋はもちろん、海も物思いを感じさせるということ。

ウ 行平の中納言が「関吹き越ゆる」と詠んだとおりだということ。

エ ここで歌を詠むと、確実に良い作品ができるということ。

問四 傍線部②はどこを指すか。本文から二字で抜き出せ。

問五 傍線部③とあるが、どのような様子を示しているか。

ア 光源氏が枕が浮いてしまうぐらい涙を流している様子。

イ 光源氏の枕が涙で浮いてしまうぐらい軽い様子。

ウ 光源氏の部屋は家来たちに密閉されているという様子。

エ 光源氏が住んでいる部屋は綺麗だという様子。

問六 Xの歌について、

（1）何と何が「まがふ」のか答えよ。

（2）思ふかたとはどこを指すか。漢字一字で答えよ。

問七 傍線部④を現代語訳したものととして、適切なものは次のうちどれか。

ア 驚いて

イ 反抗して

ウ 涙を流して

エ 目を覚まして

問八 本文の出典と作者を漢字で答えよ。